ON!

Old but New

伝統を残しながら、変わり続ける街大丸有（だいまるゆう）

大手町・丸の内・有楽町の

街づくりを発信する情報誌

大丸有で育まれる新しい**絆**

丸の内 ON!

SUPER COOLBIZ

2011 SUMMER

023

上：ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンで行われた東北・北関東産直販売
下：被災地復興を願う「元気！ FOR JAPAN」プロジェクトの活動風景

震災当日、東京駅でバスを待つ長蛇の列

震災を経て広がった人々の強い絆

3月11日に起こった大震災は、東京においても交通網が完全に麻痺し、停電などと相まって都市機能に大打撃を与えました。とりわけ帰宅時には大混乱に陥り、帰宅困難者が多数出るなど、都市における安全と安心、さらには都市生活者の災害に対する心構えや備えについて改めて考えさせられることとなりました。
こうしたなか、大丸有地区ではビルを開放したり、備蓄していた毛布を配布するなど、地域をあげて帰宅困難者をサポートしていきました。その一翼を担ったのが、「東京駅周辺防災隣組」です。これは“企業間の共助”という新しい防災理念の下に以前からこの地域の災害に備えて組織されていたもので、今回の災害においても、いままでの訓練の成果を遺憾なく発揮しました。
またその一方で、都内各所で立ち往生してしまった帰宅困難者を快く迎える施設やお店が波状的に現れ、それを知らせるツイッターやフェイスブック、ブログなどが自然発生的に広報活動を展開していくなど、迅速で多重的な情報の広がりをみせたのも特徴的な出来事でした。こうしたことを目の当たりにして、私たちは人々の優しさや思いやり、つながり・絆といったものが都市の中でも意外に強いことを改めて知ることができました。

東京交通会館で行われた東日本大震災子供応援プロジェクト「おもちゃで元気を～ Toys for All ～」では、未来ある被災地の子供たちへおもちゃなどが贈られた

東京駅周辺防災隣組の訓練風景
（写真提供／東京駅周辺防災隣組）

丸ビル地下では配られた毛布に身を覆い夜をあかす人の姿も目立った（写真提供／東京駅周辺防災隣組）

大人の部活

働く前の朝時間

街で触れあう

街と共生する

いま力強く育つ第三のコミュニティ

今回の大災害を経て私たちが実感したのは、“個”の力を磨き蓄え、それを社会に還元することで人々はいままでと違うつながりをもてるということです。そのために求められているのが、「家族」や「会社」という既存のコミュニティとは違う、属性や役職から解放されたフラットで自由な新しい関係＝第三のコミュニティです。人と人とがつながり、相互に分かち合うこの新しい関係を築きあげることができる場を大丸有地区で見つけるには、いままでと少し違うキーワードでこの街を見ていく必要があるかもしれません。ここでは、第三のコミュニティの一例として、丸の内朝大学や丸の内ハウス、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭2011をご紹介しますが、この街にはまだまだたくさんのコミュニティがあります。一人ひとりが独自の視線でこの街を歩いてみることで、いままで気づかなかった新しい「集いの場」が見つかるのではないでしょうか。

地方とのつながり

深夜の大丸有

絆1 思いを同じくする人が集い、社会貢献する 丸の内朝大学

「人に笑顔を、まちに元気を」届けるユニークな活動を展開している「ハイタッチ隊」も丸の内朝大学から生まれた。▼

オリジナルのピクニックスタイルを考える「ピクニックプロデューサークラス」や社会性が備わった事業性のあるプランを実現していく「環境・ソーシャルプロデューサークラス」、写真をコミュニケーションの手段として学ぶ「写真コミュニケーション」など人や社会とのつながりを意識した講座も多い。

「私」と「社会」を橋渡しする新しいコミュニティとして機能する丸の内朝大学

エコッツェリア協会　環境イベントディレクター
広報・PR　井上奈香

環境に配慮したライフスタイルの転換を目的に、朝の時間を有効に使おうとスタートしたのが丸の内朝大学です。丸の内朝大学は、エコッツェリア協会などの３つのまちづくり団体が、丸の内の「朝」にしかない時間を提供しようと、「環境」「食」「地域連携」「健康」「伝統」「コミュニケーション」の６本柱をテーマとして、時代の流れに即した講座を展開しています。

講座のなかで最近とくに注目されているのが、「環境・ソーシャルプロデューサークラス」です。本業とは別に週末やプライベートな時間を社会のために役立てたいという人が増えていますが、そういう方々を対象にした実践型ワークショップがこの講座です。最初の数回はソ-シャルデザインや環境の最新情報を学び、中盤からは実際のソ-シャルアイディアや環境アイディアを参考にしながら新しい企画をみんなで考えていきます。

そしてもうひとつ、「丸の内朝大学」の大きな特徴は、出勤前の朝の１時間を利用した単なる講座に留まらないことです。密度の濃いコミュニケーションから生まれる受講生同士のネットワークが、自然発生的に新たなコミュニティをつくりあげていきます。こうしたコミュニティの力と、「環境・ソーシャルプロデューサークラス」で学んだスキルとが結びついて、「ハイタッチ隊」や「東京キャンプ」、「温泉トラベル研究所」などユニークなアクションが生まれました。

今回の震災でも、ここで学んだ多くの人たちから何かしたいという声がごく自然に生まれ、「コミュニティアクション for 東日本大震災」がスタートしました。自分を磨くことだけに満足するのではなく、そこで学んだことを社会のために役立てたい。そして、できることなら思いを共有できる仲間と巡り会いたい。「丸の内朝大学」では職業や肩書きといったバリアを超えたフラットな関係のなかから、さまざまなコミュニティが誕生しています。

絆2 “横町感覚”で交流が生まれる大人のゲストハウス 丸の内ハウス

◀草間彌生さんのアートイベント「水玉宇宙の星たち」では「水玉強迫パーティナイト」なども繰り広げられ、丸の内ハウスが草間ワールドに包まれた。

開放的なテラスと個性的な店が集う丸の内ハウスでは、食、音楽、ファッション、アートなどをテーマに刺激的なイベントが開催される。

家でもないオフィスでもない サードプレイスから生まれる新しい文化

丸の内ハウス事務局
統括マネージャー
玉田　泉

新丸ビル誕生と同時にデビューしたのが同ビル７階にある「丸の内ハウス」です。ここのコンセプトは“丸の内のゲストハウス”。大丸有地区は区画もきちんと整理されていて、裏通りや横町といった感じの場所がありません。そこで、さまざまなスタイルのたまり場、夜な夜なおしゃれして遊べる場をこの街につくろうというのが「丸の内ハウス」の狙いです。

とはいえ、デベロッパーがこんな街づくりをしたいと考えても、アウトプットの場であるテナントさんも同じ意識をもっていないと実現することはできません。「丸の内ハウス」がスペースとして一体感を出すためにコンセプトをどうするか、パブリックスペースの演出は、店舗同士の管理エリアは、そしていかに魅力的で新しい場所をつくるか・・・。これらの課題を解決するために、オープンにあたってデベロッパーが丸の内ハウス事務局をつくり、テナントオーナーと立場を超え何回も真摯なディスカッションをしてきました。

「丸の内ハウス」はパブリックスペースをうまくデコレーションすることで、店と店の間を意識せずに行き来できるようになっています。ある店で購入したドリンクをテラスや共用部で楽しむこともOKです。そんな自由な雰囲気が、新しい大人の社交場として独特の空気感を醸しだし、いままでにない新しいコミュニティが生まれるのだと思います。それはお客さまだけでなく、テナント側も同じで、震災当日も店長たちが自発的に相談して、「丸の内ハウス」として何回も炊き出しを行いました。

家庭でも職場でもないサードプレイス。ここに集う人も迎える側の人も、思い思いのスタイルで過ごしながら、大きな思いを共有した集合体が「丸の内ハウス」です。一人でも来られてグループで来ても楽しい。ここに来れば誰かがいて、新しい出会いがある。敷居はつくらないけど、雑多ではなく独特のテイストがある。そんなゆるい関係、ウィークなつながりから、新鮮なミクスチャーができ新しい文化が生まれていくのではないでしょうか。

絆 3 復興の気持ちを音楽に込める ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭2011

音楽祭から地域、アーティスト、参加者など、新たな絆の兆しがみえてきた

株式会社東京国際フォーラム
ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭 2011 事務局長
斉藤　真

3 月 11 日の大震災で大丸有地区も帰宅できない人たちでごった返し、東京都では東京国際フォーラムを帰宅困難者に開放することを決定しました。これを知った人たちが当施設に続々と訪れ、11 日から 12 日にかけて利用された方々は概数で 4,300 名にものぼりました。なかには、新幹線が止まり地元に戻れなくなってしまった修学旅行生もおり、この地区における当施設の役割が、イベントや公演の開催といった文化的側面だけでなく、街の安全や安心をサポートする公的な場としての機能も併せ持つことを改めて認識しました。その後、東京都では東京ビッグサイトや東京国際フォーラムでも東日本大震災の被災者と福島第 1 原発事故の避難住民を受け入れることを決定。当施設では約 1,000 名の受け入れ態勢を整え、準備を進めていきました。また、当施設も今回の大震災とその後の余震で電気系統に不具合が発生し、ホール A、ホール B7、B5 が使用できない状況になりました。

こうしたなか、大丸有地区におけるゴールデンウィーク最大のイベント「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭 2011」を開催し、多くのお客様をお迎えするにはいくつかの懸念材料がありました。刻々と変化する状況のなか、さまざまな課題を議論しクリアしていかなければならず、その間、スポンサーやチケット購入者をはじめ多くの方々に多大なご迷惑やご心配をおかけしました。中止・延期という選択肢もあったのですが、「とどけ！音楽の力 広がれ！音楽の輪」を合い言葉に、規模を縮小して開催することを決断しました。この間、経済活動を留めてしまうのは良くないという話も聞こえてきました。また、東京都からも復興支援のための東北・北関東の産直販売を行いたいという打診や、大丸有地区の自粛ムードを切り替えるきっかけとして期待する声もあり、こうしたことを総合的に考え、安全を確保したうえでの開催決定でした。

その背中を最後にひと押ししてくれたのが、このようなときこそ日本の人々に音楽を届けたいとの強い思いを持って参加を表明してくれた 128 名の海外アーティストです。この音楽祭がアーティストとの強い絆で結ばれていることを改めて痛感しました。また、ご来場いただいたお客様、ご協力いただいた方々、そして大丸有地区の関係者の皆様・・・、この音楽祭に集ったすべての人たちが立場の違いこそあれ、“今だからこそ音楽祭に参加するという思い”を共有することで、新たな絆が生まれたのではないかと感じています。

© 三浦興一

▲音楽祭では東北・北関東の産直販売を行ったり、義捐金を募り被災地の復興を支援した。

© 三浦興一

© 三浦興一

ON アンケート質問事項（回答は右のハガキにお書きください）

Q1 「大丸有」（大手町・丸の内・有楽町の略称）という言葉を知っていましたか？
❶はい　❷いいえ

■読者の皆様について教えて下さい。

Q2 年齢　❶10代　❷20代前半　❸20代後半　❹30代前半　❺30代後半　❻40代前半　❼40代後半　❽50代　❾60代～

Q3 性別　❶男　❷女

Q4 職業　❶学生　❷会社員（公務員含）　❸自営業　❹主婦　❺フリーター　❻その他

Q5 勤務地　❶大手町・丸の内・有楽町地区内　❷23 区内　❸その他

Q6 居住地　❶23区内　❷23区以外の都内　❸その他

Q7 来訪目的　❶仕事　❷買い物　❸食事　❹観光　❺その他

■ ON について教えてください。

Q8 ページ数　❶多い　❷適切　❸少ない

Q9 発行頻度（現在年 3 回発行）　❶多い　❷適切　❸少ない

Q10 『ON!』を読んだ経験　❶初めて　❷毎号読んでいる　❸複数回

Q11 『ON!』を通じてどのような情報が知りたいですか？（複数回答可）
❶歴史　❷建築物　❸環境対策　❹インフラ（駅・交通）　❺知られざるスポット　❻グルメ　❼イベント　❽ファッション　❾アート　❿音楽　⓫自己研鑽　⓬その他

Q12 『ON!』をどこで取得されましたか？

Q13 ON 編集方針についてのアドバイスやご意見・ご要望をお願いします。

■ 大丸有地区の安全・安心対策への更なる取り組みの参考にさせていただきたいと思いますので、以下についてもご意見を聞かせください。

Q14 東日本大震災が発生した時、どこにいましたか？

Q15 地震発生後、最初に気になったこと、起こした行動は何ですか？

Q16 震災時に困ったこと、助かったことは何ですか？

Q17 防災・震災対応の観点から、大丸有地区に必要な機能・設備・空間は何ですか？

Q18 防災・復興支援について、今後のどのような行動を起こしたいですか（起こしましたか）？

Q19 その他、今回の震災を通じて感じたことをお書きください。

ご協力ありがとうございました。

なお、お寄せいただきましたアンケートは『ON!』の編集ならびに大丸有地区での施設運営・イベント企画等の目的以外では使用いたしません。

切り取り線

●アンケート回答ハガキ ※該当する番号を○で囲って下さい。

Q1 「大丸有」（大手町・丸の内・有楽町の略称）という言葉を知っていましたか？
❶　❷

Q2 年齢　❶　❷　❸　❹　❺　❻　❼　❽　❾

Q3 性別　❶　❷

Q4 職業　❶　❷　❸　❹　❺　❻（　　）

Q5 勤務地　❶　❷　❸（　　）

Q6 居住地　❶　❷　❸（　　）

Q7 来訪目的　❶　❷　❸　❹　❺（　　）

Q8 ページ数　❶　❷　❸

Q9 発行頻度　❶　❷　❸

Q10 『ON!』を読んだ経験　❶　❷　❸

Q11 『ON!』を通じてどのような情報が知りたいですか？（複数回答可）
❶　❷　❸　❹　❺　❻　❼　❽　❾　❿　⓫　⓬（　　）

Q12 『ON!』をどこで取得されましたか？（　　）

Q13 ON 編集方針についてのアドバイスやご意見・ご要望をお願いします。
（　　）

Q14（　　）

Q15（　　）

Q16（　　）

Q17（　　）

Q18（　　）

Q19（　　）

料金受取人払郵便

赤坂支店
承　認

9343

差出有効期間
平成23年12月
31日まで
（切手不要）

郵便はがき

1 0 7 - 8 7 9 0

121

東京都港区南青山1－1－1　新青山ビル西館

株式会社アイプラネット　プロモーション部

大丸有協議会事務局

ON！編集部　行

切り取り線

TOPICS

大丸有協議会を含む３団体が日本都市計画学会 石川賞を受賞

大丸有協議会（以下、当協議会）ならびに、大丸有エリアマネジメント協会、エコッツェリア協会の３団体は、このたび（社）日本都市計画学会より「2010年度石川賞」を受賞しました。

今回の受賞テーマは「公民協調による大丸有のまちづくり～エリアマネジメント・環境共生への取り組み～」で、当協議会を含む３団体が実践してきた点である官民連携によるまちづくり、まちの将来像について常に関係者が共通認識を持たせる取り組み、最先端の都市計画制度の活用、PPP、エリアマネジメント、環境共生など都市計画に関する先進的な取り組み等が石川賞の受賞にふさわしいと評価されたものです。

日本を代表する都市計画家で東京の戦災復興計画を担当したことでも知られる石川栄耀氏の名を賞名としている「石川賞」の毎年の表彰には、石川賞、論文賞、計画設計賞などがありますが、このうち石川賞は最高賞で、50年以上の歴史を持つ権威ある賞です。都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体に贈られるものです。過去に団体では「神戸市における旧居留地連絡協議会のまちづくり活動」「タウンマネージメントプログラムによる商店街再生事業－高松丸亀町商店街A街区第一種市街地再開発事業－」などが受賞しています。

◀授賞式に臨む３団体代表
写真左より、
エコッツェリア協会 伊藤滋 理事長
大丸有エリアマネジメント協会 小林重敬 理事長
大丸有協議会 合場直人 幹事長
※写真右は、表彰状を授与する
日本都市計画学会 岸井隆幸 学会長

発行：大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635区
TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
http://www.lares.dti.ne.jp/~tcc/
＊本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら
右記までお寄せください。e-mail:tcc@lares.dti.ne.jp

服装だけではなく街全体でできる工夫を実践するプロジェクト
「丸の内　SUPER COOLBIZ」
7/19～8/31 開催中。
URL:www.ecozzeria.jp/supercoolbiz

丸の内 ON! SUPER COOLBIZ

「大丸有（だいまるゆう）」とは、大手町の「大」・丸の内の「丸」・有楽町の「有」からとった造語です。
丸の内エリアライブカメラ：http://www.lares.dti.ne.jp/~tcc/live/index.html